



区民にはほとんど伝わっていない 複雑な新庁舎建設の制約条件

●総合支所には行ったことがあっても、なかなか世田谷区役所（本庁舎）を知っている区民の方は少ないかも知れません（成人式でご存知の方もいるかもしれませんが）●実は、今回の新庁舎建設は、大きな制約条件があります●まずそのことを知らないと、議論がチグハクになってしまいます●その制約条件とは、現在の業務を行いながら同じ敷地内に、新たな庁舎を建設するということです●業務を継続しながら、同じ敷地内（赤枠）で建て替えを進めるという難易度が高く、かつ選択肢（自由度）が限られた新庁舎建設になるということです●さらに現在の庁舎の床面積が2万4千㎡であるのに対し、保坂区長が決めた新庁舎の床面積は4万5千㎡と1.8倍以上です●現在の景観維持はこの決定の時から無理だったのです。

現在の区役所の配置図



現庁舎内で働きながら敷地内に建設という課題



現在の庁舎の抱えている問題は 老朽化とともに分散された庁舎

●上の配置図を見ての通り、第1庁舎と第2庁舎が分かれており、さらに災害対策本部は第3庁舎にあります●これは56年前の建設当初から、都の事務移管や行政サービスの増加により、タコ足のように増築が繰り返された結果です●さらに近隣にビルを借り、数百メートル離れた区有地に分庁舎もあります●職員の移動時間も、互いの意思疎通にも支障をきたしている状態です●これは災害時にまさに致命的です●保坂区長案はなるべく現状維持（不便）の景観を残したい、議会側では災害時には有効に機能し、平時にはワンストップサービスのためにも、分散庁舎の解消を主張しています。



保育所問題の大ブレーキ 保坂区長の評論家風の区政運営

●世田谷区の当面する課題は、保育所待機児問題です。残念ながら今年4月までの増設計画は6割しか達成できず、ワーストは避けられません●一方で、保育所建設反対の風潮を自分のツイッターで紹介しまくり、結果的に「反対している人が少なくない」という印象を広め、区の職員が頑張っている建設計画を困難にしているのは、保坂区長その人なのです。そんな「光景」を紹介する前に、区の責任者として動くのが区長の仕事ではないでしょうか●まず下の保坂区長の4年前のツイッターをお読みください。それが実は・・・

「子どもが遊ぶ声がうるさい」との苦情を受けて「声を出さない」ようにマスク等で口を封じて遊ぶサイレントキッズの姿。その光景は怖いものがあるが、こうしたクレームへの過剰反応を見て、何の痛痒も感じない「大人」が増えていることがピンチだと思う
2012年8月25日 保坂区長ツイッターより

これを見たら、そんな保育園どこにあるのか、マスクの皆さん、気になるでしょう、取材したくなります。しかし実際には下のブログの通りだったのです。公人として、こんな言い訳に何の痛痒も感じないのでしょうか？この人の「言葉使い」は問題なのです。

「マスクをして遊ぶサイレントキッズ」取材したいという問い合わせがありました。これはあくまでも比喩的表現です。苦情を受けて、制限を加えていることへの違和感を表したものでした。2014年10月14日保坂区長ブログより

何なんだよ世田谷区 100億円も余計な税金 つぎ込んで新庁舎建設かよ 子育て応援都市じゃねーのかよ 保育園先に作れよ！

と言われかねない事態なのです



100億円の差は 保坂区長の趣味的こだわり

●なぜ、保坂区長は100億円も高い庁舎建設に固執するのでしょうか。区民の皆さんには

はわからないと思います●実は第1庁舎、第2庁舎、区民会館は著名な建築家の前川國男氏の設計なのです●もちろん、それなりの評価はあるのですが、その「保存」に保坂区長は夢中なのです●「保存」となると外観と躯体を残し中身をリノベーションするという複雑な作業工程が入ります●そのため工期が伸び、高額になるのです。さらには低層にするため庁舎全体の地下部分の比率が増大します。最悪の場合、庁舎の約3割が地下となる区の計算です（※地下駐車場スペースを除いて約3割です）●世田谷区役所の現在の姿を残すのに100億円の価値があるか、区民の皆さんに考えていただきたいのです●もうこれは保坂区長の趣味としか言えません。

本庁舎問題の比較例

H27年決算資料※編集後記参照
H28年庁舎整備検討案より

	事業費	工期	広場
保坂案	408億	7年6ヶ月	2,500㎡
H19年度修正案	300億	5年2ヶ月	4,000㎡

おおば正明の編集後記



●区役所の改築が検討されたのは平成16年。そして平成19年度には左図のような配置計画案まで作成（これが上のH19年度修正案で、事業費を昨年9月現在で区が再計算して300億円。これも震災前の案で修正の余地はあるでしょう）●その後のリーマン恐慌

で議論は後退。平成23年の東日本大震災で、首都直下への備えとして再浮上●昨年の選挙でも現庁舎では非常用電源が圧倒的に不足、職員がいても働けない状況をどうするのか、問い続けて参りました●今号では庁舎の景観等に保坂区長が異常に固執し、議論が前に進まない状況をお伝えしました●説明不足の点はブログをご覧ください。検索でおおば正明と入れれば出ます●今回、左の保坂区長のツイッターの件は驚かれたと思いますが、「不思議な言葉使い」は議会では知れ渡っています。故にまともな議論が成立しないのです●退職金の件も同じで、何もわからず暴走し、後で整合性がつかないことが多いのです●マスク受けは天才、しかしイメージと実務は異なります。そこをお判りいただきたい。

おおば正明の略歴

① 昭和62年組織なし、カネなし選挙で3052票を得て最下位初当選（次点と14票差）② パン屋の後藤雄一氏（元都議）と作った『世田谷行革110番』で不正追及、ダメ公務員追放の先頭に立つ③ 連続8期当選。政党歴なし④ これまで議会弁当事件、汚職部長クビ事件ほか使い込み事件等、数々の不祥事を追及⑤ また保坂区長の規範意識の弱さを事実によって指摘（予算書に不掲載のオランダ旅行等数々追及）⑥ 「特定秘密保護法」「解釈改憲」「原発再稼働」に反対⑦ 「福祉の財源は行革から」が政治信条⑧ 特定の利益団体、宗教団体、労働組合等との関係、支援は過去も現在も一切ありません。■59歳 ■成蹊大経済卒 ■妻・娘と粕谷在住 ■孫二人 私の顔写真は裏面右下